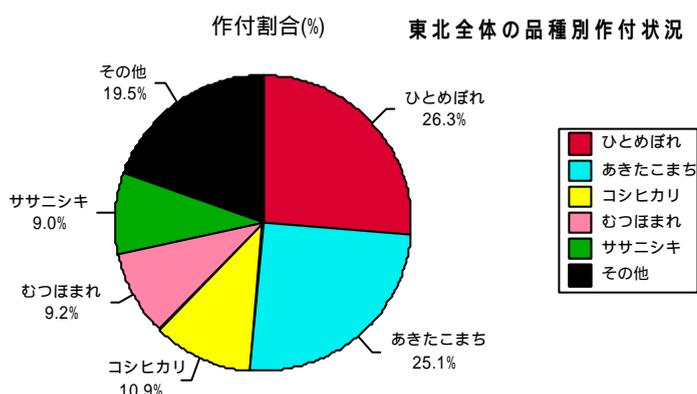


表 題：平成 10 年度主要品種の作付動向

概 要：東北地域における 10 年度産米の品種別作付状況を上位 5 位で概説する。

東北地域の平成 10 年産米の品種別作付状況を上位 5 品種で見ると、前年産の 1 位と 2 位が入れ替わり、次の通りとなっている。

| 順位 | 品種名 | 作付面積(ha) | 割合(%) |
|-----|--------|----------|-------|
| 1 位 | ひとめぼれ | 110,054 | 26.3 |
| 2 位 | あきたこまち | 104,680 | 25.1 |
| 3 位 | コシヒカリ | 45,525 | 10.9 |
| 4 位 | むつほまれ | 38,442 | 9.2 |
| 5 位 | ササニシキ | 37,410 | 9.0 |



1) 品種別作付動向の特徴

- ・ 1 位の「ひとめぼれ」：福島県で減少したものの、宮城県、秋田県、山形県で増加したことから約 6,900 ha 増え、作付面積割合は 3.9 ポイント増えた。
- ・ 2 位の「あきたこまち」：山形県で増加したが、岩手県、秋田県で減少したことから約 5,400 ha 減った。
- ・ 3 位の「コシヒカリ」：福島県で増加したことから約 1,100ha 増えた。
- ・ 4 位の「むつほまれ」：品種交換が進んだため約 6,000 ha 減った。
- ・ 5 位の「ササニシキ」：品種交換が進んだため約 23,100 ha 減った。

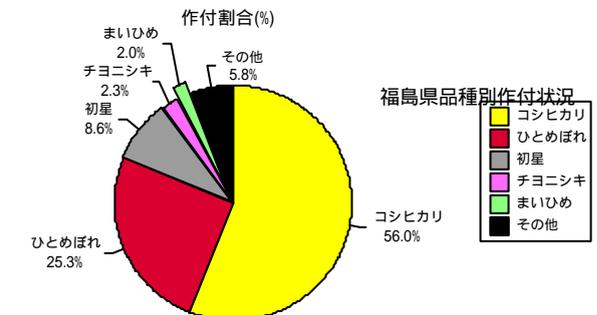
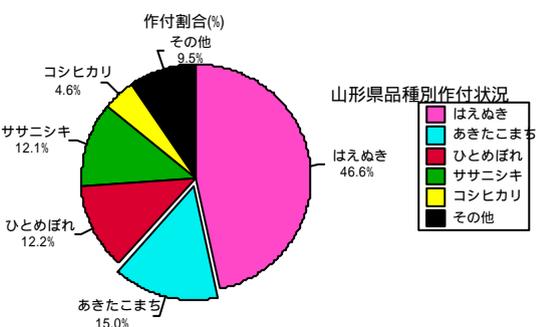
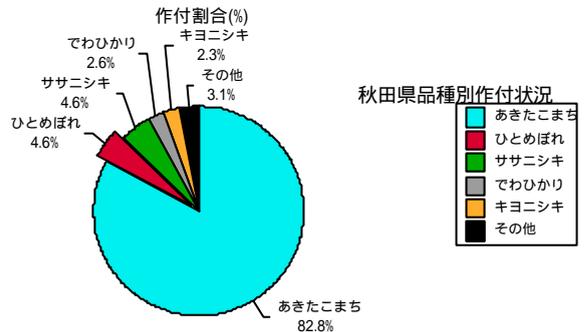
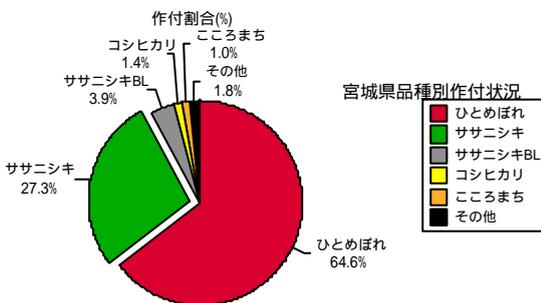
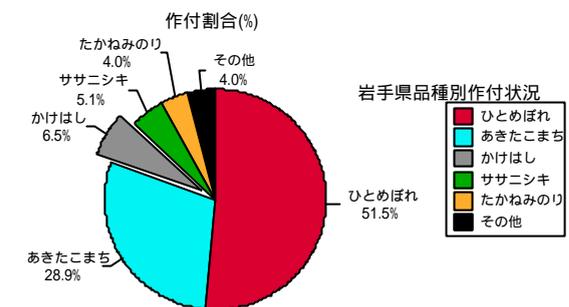
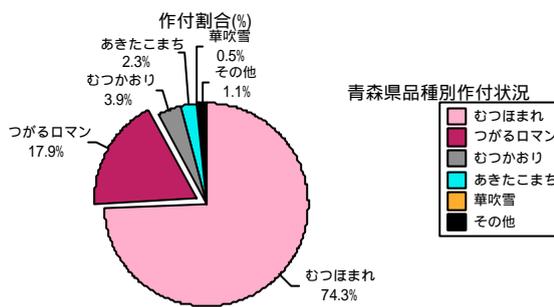
この 5 品種による東北の作付面積割合は 80.5%となり、前年産に比較して 1.6 ポイント増加し、中生品種主体の状況が続いている。

2) 県別品種別作付動向の特徴（下図参照）

- ・ 青森県：「むつほまれ」が約 6,000 ha 減少し、「つがるロマン」が約 7,400 ha 増加した。「つがるロマン」は作付面積割合が 14.6 ポイント増加し、約 18%になる。
- ・ 岩手県：「あきたこまち」「ササニシキ」が減少し、「かけはし」が増加した。「ひとめぼ

れ」はほぼ横ばいとなっている。

- ・宮城県：「ササニシキ」が大幅に減少し、「ひとめぼれ」が増加した。いもち病の真性抵抗性遺伝子品種「ササニシキ BL」は約 2,400 ha 減少した。
- ・秋田県：「あきたこまち」「ササニシキ」が減少し、「ひとめぼれ」が増加した。
- ・山形県：「あきたこまち」「ひとめぼれ」が増加し、「はえぬき」「ササニシキ」「どまんなか」が減少した。
- ・福島県：上位 5 品種（コシヒカリ、ひとめぼれ、初星、チヨニシキ、まいひめ）のうち「コシヒカリ」と「まいひめ」が増加し、他の 3 品種はすべて減少した。



参考資料：東北農政局「東北農業情勢報告（平成 11 年版）p48-53.

食糧庁「米穀の品種別作付状況」